

市立秋田総合病院改築基本設計業務委託に関する

公募型プロポーザル審査講評

平成29年9月20日

市立秋田総合病院改築基本設計業務委託
に関する公募型プロポーザル審査委員会

平成29年9月20日

市立秋田総合病院改築基本設計業務委託
に関する公募型プロポーザル審査委員会

委員長	上野 淳
副委員長	中山 茂樹
委員	西田 哲也
委員	辻 直文
委員	小松 眞史
委員	伊藤 誠司

1 審査結果

市立秋田総合病院改築基本設計業務委託に関する公募型プロポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。）において、二次にわたる審査を厳正かつ公平に行った結果、次の者を最優秀提案者および優秀提案者に決定した。

最優秀提案者 久米・村田設計共同企業体

優秀提案者 日建設計・コスモス設計市立秋田総合病院
改築基本設計業務共同企業体

2 講評

このたび、市立秋田総合病院改築基本設計業務委託に関する公募型プロポーザルを行ったところ、6者からの応募を得ることができた。いずれも事業内容をよく理解された上での質の高い提案内容となっており、これらの応募者のご尽力に心よりの謝意と敬意を表する次第である。

[一次審査]では、6名の各審査員が、これらの6提案についてのそれぞれの特徴・得失等について見解を述べ意見交換を行った上で、技術提案テーマ①～⑤の評価項目に従って評点を付す作業を行った。集計の結果、上位4位までの総合点を得た4者を最終審査の対象者とするのを満場一致で確認した。

[公開プレゼンテーション]は、プレゼンテーション15分、ヒアリング・質疑応答25分の割り当てで、4者に対して公開にて行われた。

これに続く「最終審査（非公開）」では、まず6名の各審査員がこれらの4者の提案内容とプレゼンテーション・質疑応答におけるそれぞれの特徴・得失等につい

て見解を述べ、意見交換を行う中で評価に関する観点の共有化を図った。そのうえで、各委員が最優秀と考える提案についての見解を述べ合ったところ、満場一致で次に示す結論に至った。

[個別講評] (プレゼン順)

F者

冬季の強い北西風を避ける東側メインエントランスの設定、1フロア60床1看護単位としながらも15床、30床の小ユニットに分節化できる病棟プランの提案、医療棟と医療支援棟に分ける棟構成の考え方など、全体に緻密で的確な計画提案の水準の高さに評価が集まり、最優秀と判断された。救急の受入、処置部門と救急病棟が同一フロアに設定されていないなどの指摘もあり、今後十分に病院側と調整することが希望された。

B者

秋田市の地域中核病院が備えるべき諸機能について良く理解したうえでの提案密度の高さは一定の評価を得た。全体の階数を抑えるため1フロア2看護単位120床による病棟提案であったが、四周に病室を並べる結果、内部側の面積が膨らんでしまっている点、病棟内動線が長くなっている点などに、疑義が指摘された。

A者

全体に明快で緻密な計画提案が高い評価を得て、最後までF者と最優秀を争った。部門構成の考え方等は、明快・的確で、特に成長と変化に対応すべく病棟と診療棟を別棟とする提案内容とその姿勢は高く評価された。反面、手術室と手術供給の間の動線の迂回、パブリック空間としてのエントランス吹き抜け空間の大きさなどに関する妥当性などについての疑義が指摘され、優秀との評価となった。

C者

部門構成など全体に破綻のない計画が示されているが、1看護単位60床に対する計画的取り組みの姿勢、1、2階エントランス部門におけるコミュニティープラザの有効性などに説得力が乏しく、支持を集めるには至らなかった。